# テールアルメ

## 特　長

**1 省資材化、経済性が向上**

標準タイプのテールアルメの長所はそのままに、省資材化、経済性がさらに向上しました。

**2 高い安定性と追随性**

数多くの実績・経験を重ね、高い安定性・追随性が確立された十字形スキンを使用します。

**3 部材使用量を適正化**

作用力の少ない壁上部のストリップをより合理化し、部材使用量が適正化されました。

**4 幅広ストリップを採用**

A3は壁面の安定性・追随性に配慮したトライアングル配置で、摩擦抵抗力を1.3倍に引上げた幅広ストリップを使用します。

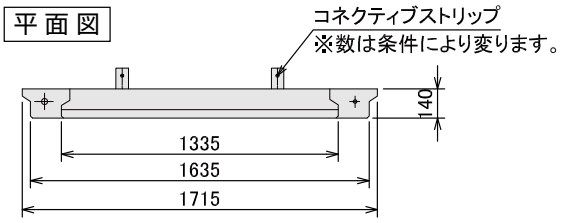
**5 全体の補強材長を短縮**

高強度ストリップ（幅60mm）を巧みに使い分け、全体の補強材長の短縮を実現しました。

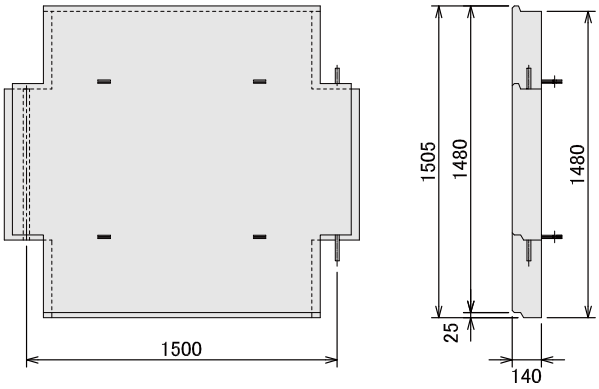
# 形状・寸法図

## 標準用（Aタイプ）

平面図



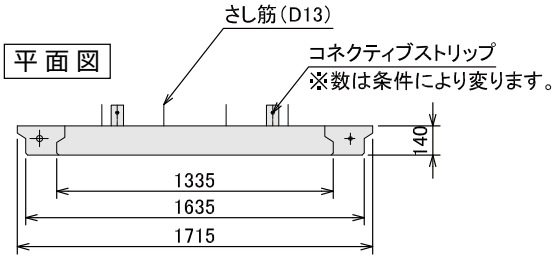

正面図　右側面図



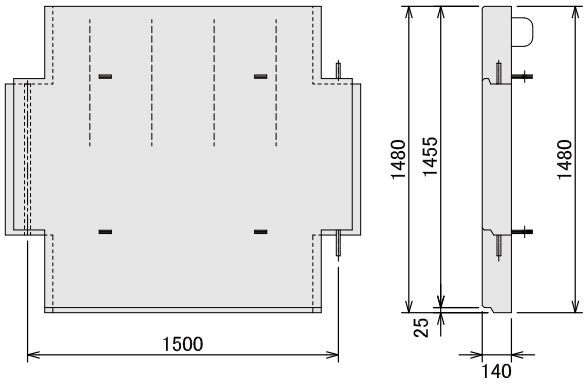

※左(AL)右(AR)端部用もございます。　参考重量：909kg

## 天端用（Bタイプ）

平面図



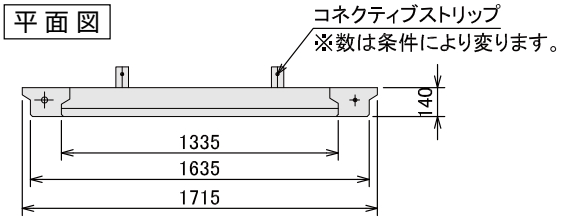

正面図　右側面図



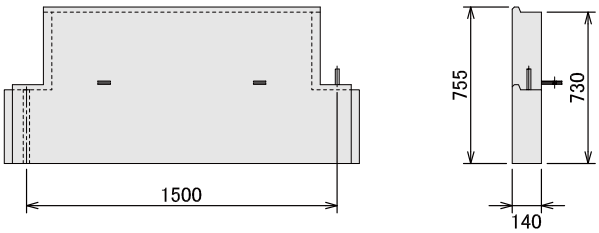

※左(BL)右(BR)端部用もございます。　参考重量：897kg

## 最下段用（Cタイプ）

平面図



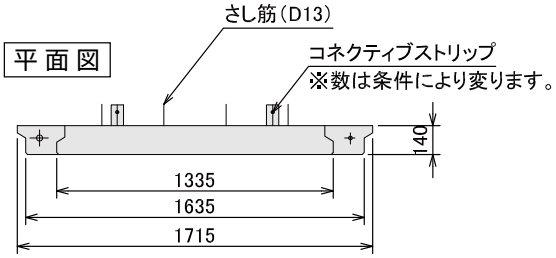

正面図　右側面図



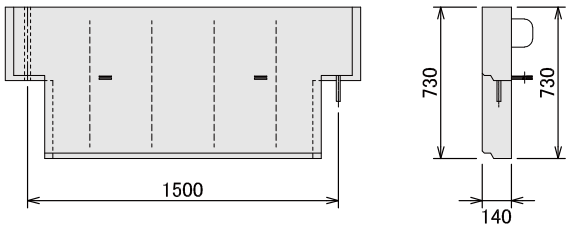

※左(CL)右(CR)端部用もございます。　参考重量：455kg

## 天端用（Dタイプ）

平面図

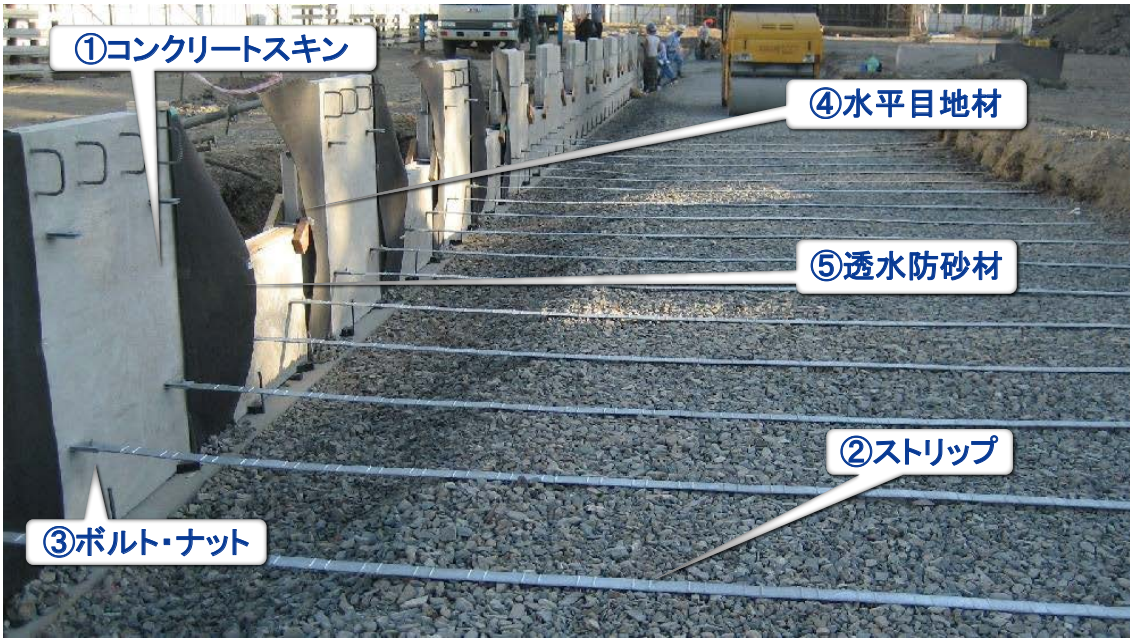



正面図　右側面図

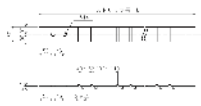
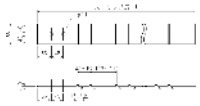



※左(DL)右(DR)端部用もございます。　参考重量：442kg

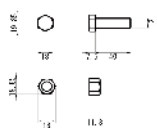
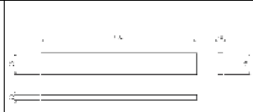
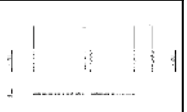
## 主要部材



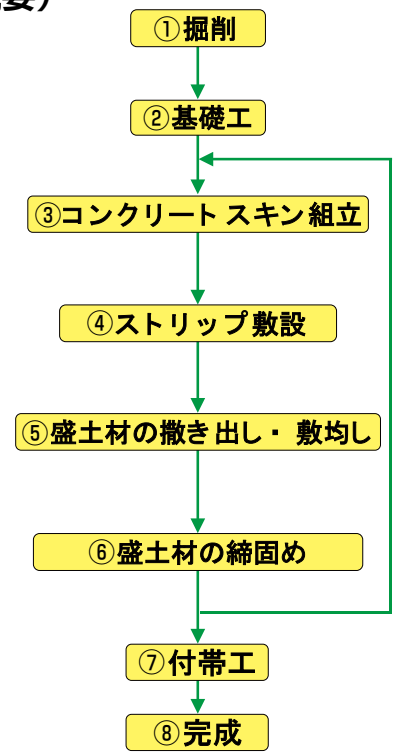

【②ストリップ】

| SM490A仕様 | SS400 幅広仕様 |
|---|---|
|  |  |
| 規　格：SM490A(黒皮・亜鉛めっきHDZ50)<br>形　状：80×4.0×L<br>許容引張応力度：σsa=185N/mm²<br>重　量：2.02kg/m | 規　格：SS400(黒皮・亜鉛めっきHDZ50)<br>形　状：80×4.0×L<br>許容引張応力度：σsa=140N/mm²<br>重　量：2.69kg/m |
| | |

【副資材】

| ③ボルト・ナット | ④水平目地材 | ⑤透水防砂材 |
|---|---|---|
|  |  |  |
| 規　格：M12×40<br>六角ボルト8.8<br>許容せん断応力度：200N/mm² | 形　状：85×600×20<br>材　質：高密度コルテ<br>重　量：572g | 形　状：420×4.0×L<br>材　質：長繊維不織布<br>重　量：168g/m |
| | | |

## 施工手順（概要）



①掘削状況

③スキンの組立て

④ストリップの敷設状況

⑤撒きだし状況

⑥締固め状況
（ヘルメットはちゃんとかぶりましょう）

「NETIS」登録番号 No.QS-170031-A

# テールアルメＦＳ

**フェイルセーフ（Fail Safe）機能を付与し，
さらに壁内部の不具合を『見える化』した
維持管理型テールアルメ**

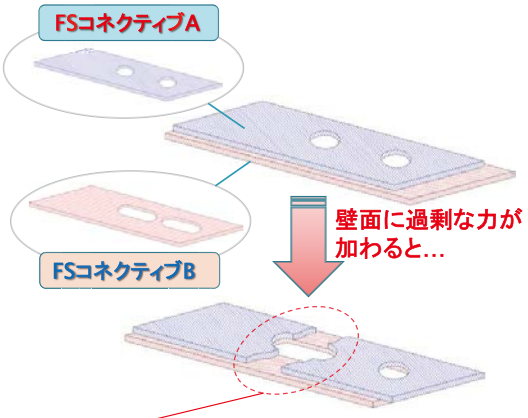
## フェイルセーフ機能の付与とは

着目する部材等の機能が喪失した場合に，**平常時には機能していない別に設けられた部材が機能すること**で，全体に致命的な影響が生じることを回避するようになっているものである。（**道路橋示方書・同解説 Ⅰ共通編 1.6.2 構造設計上の配慮事項 より**）

## 【新開発】FSコネクティブ

特許第5899358号

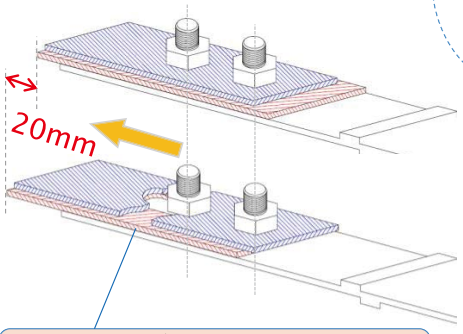
### 安全性を維持するFail Safe機能

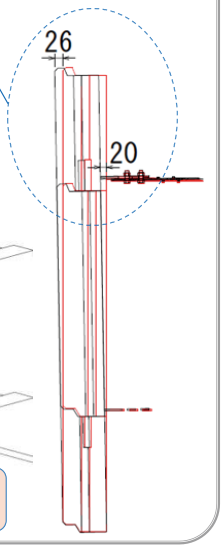



各コネクティブの破断強度を調整したことにより，**FSコネクティブA**が先行破断し，コネクティブの役割は長孔に沿って20mmスライドした後，**FSコネクティブB**にシフトします。

### 内部異常を可視化するFail Sensor機能

**FSコネクティブB**にコネクティブ機能が20mmスライドしながらシフトすると，壁面が**機能的に**傾き，不具合を外観で**目視化**します。




**FSコネクティブB**はストリップより高い強度を有し，安全性を確保しています。

## FS機能で安全性を確保したまま調査，対策検討，措置が可能

※イメージ写真

**主な特徴**

① FS機能により突然の崩壊を防止
② 点検手法である目視確認に特化
③ 変状サインにより視認性向上

維持管理を追及した
新しいテールアルメをご提案します

# テールアルメFS

「NETIS」登録番号 No.QS-170031-A

## スキン構造図及び名称

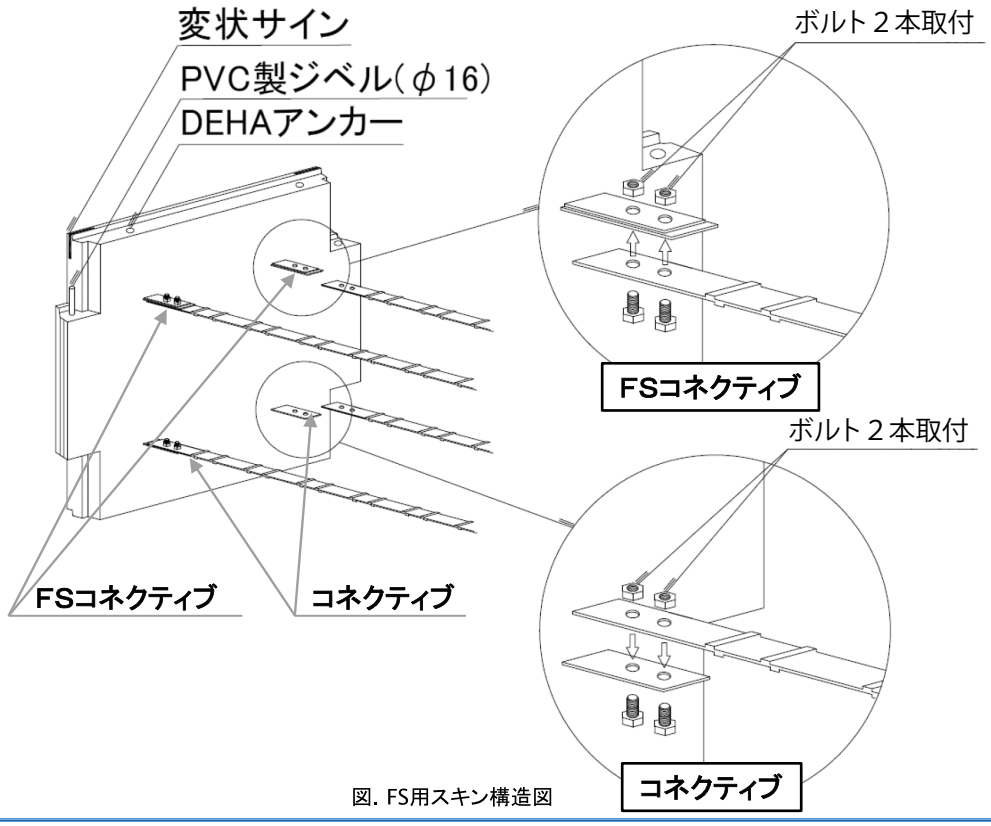


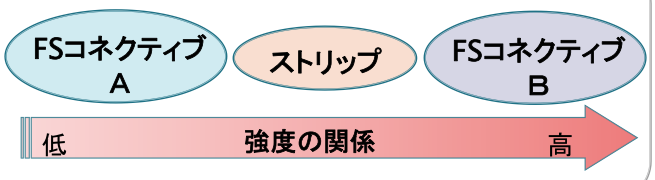

図. FS用スキン構造図

## フェイルセーフ機能

### Case1. 地震をはじめとする過緊張が発生した場合

**【ボルト孔欠損部分の耐力】**

FSコネクティブA※：31,080N
FSコネクティブB※：37,800N
SMストリップ※　　：33,300N




### Case2. 経年劣化の場合

調査では…コネクティブの付根の上面の腐食が激しい
（ただし，腐食しろの決定根拠の想定範囲内）

**【コネクティブのボルト孔欠損部分の耐力（腐食1mm時）】**

FSコネクティブA※：25,900N
FSコネクティブB※：31,500N

→ 腐食時においても FSコネクティブAが 先行破断する

調査により採取したコネクティブ

※【部材寸法】FSコネクティブA：PL6.0×43×384（SM490A）
FSコネクティブB：PL6.0×60×399（SS400）
SMストリップ　：PL4.0×60　（SM490A）

土中環境による鋼材の腐食速度の違いや鋼材の規格強さの範囲などにより，破断順が異なることがあります。